

市川市立福栄中学校 令和7年度 学習の指針

教科 国語科

学年 3年

I. 学習の目標

国語で「理解し表現する資質・能力の育成」を通し、「自主・自立」の姿勢を更に伸ばすと同時に、定着を図る。考え方や心情を読み取る力や語彙を身に着ければ自分の考えを正確に伝えることができる。その能力を生かすことで、問題を自力で解決する事ができ、「自主・自立」の達成に繋がる。

- ① 何を理解しているか、何ができるか → 国語による理解力や表現力を洗練し、伝える力、適切な語彙を選ぶ力を養うために、教材ごとの目標やねらいを明確にし、考え方や思いを正確に捉え、言葉にする読解力や思考力を向上させる。
- ② 理解していること・できることをどう使うか → 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域において、多様な話題・内容を取り上げた学習の中で自ら「問い合わせ」をもち、課題を発見し、考え、表現し、伝え合う力を育成する。

2. 学習計画

	学習内容	学習のねらい
I 学期	<ul style="list-style-type: none">・春に・立ってる春・なぜ物語が必要なのか・一言でまとめて一言から広げる・私・薔薇のボタン・構成を考えて主張をまとめる・メディア・リテラシーはなぜ必要か？／新聞が伝える情報を考える・漢字の広場1・漢字の広場2・文法の小窓1・言葉の小窓1・AIは哲学できるか・具体例をもとに説明文を書く	<p>【詩】・心情を表す語句に着目させ、使用した目的や背景を考えさせ、語感と読解力に磨きをかけ、表現力の幅を広げる。</p> <p>【表現】・「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係や登場人物の心情などを正確に捉えている。</p> <p>【文法・語句】用途に合わせた語句を用いれるように、応用問題を適宜行い、2年次の知識の確実な定着を図る。</p>
2 学期	<ul style="list-style-type: none">・async・問い合わせる言葉・説得力のある批評文を書く・文法の小窓2・言葉の小窓2・言葉の小窓3・漢字の広場3・漢字の広場4・相手に対する配慮と表現・ニュースで情報を編集する・実用文を読む・旅への思い・和歌の調べ・風景と心情・最後の一句・俳句の味わい・初恋・故郷・自己PR文を書く・表現の工夫を評価してスピーチをする	<p>【表現】・「話すこと・聞くこと」において、自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫している。</p> <p>・「思考」において、文章を読んで理解したことを自身の知識や経験と結び付け、発展的に考えられる。</p> <p>・「書くこと」において、自分の伝えたい内容を精査し、適切な言葉遣いや語句を用いて表現できるよう、面接や作文を意識しながら工夫する。</p> <p>【知識・技能】古文や和歌などの、古典作品に対しての苦手意識を払拭し、主人公や表現技法を正確に捉えさせる。</p>
3 学期	<ul style="list-style-type: none">・持続可能な未来を創るために——人間の生命・存在を考える／生命とは何か／地球は死にかかっている／水の星・意見を共有しながら話し合う・情報をまとめて作品集を作る・バースデイ・ガール・青春の歌・やわらかな想い	<p>【知識・技能】義務教育の集大成として、国語の学習を通して学んできた、「書くこと(作文)」や「話すこと(スピーチ)」はもちろんのこと、初見の文章に対して、的確に対応できるよう総復習を図る。</p>

3. 評価

(1) 内容および方法

		評価の内容	評価の方法
①知識・技能		・学習内容をどれだけ理解できているか ・理解したことを活用できるか。	定期試験 授業内で行う小テスト
②思考・判断・表現		・「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」を通して、自ら「問い合わせ」をもち、課題を発見し、考え、表現し、伝えることができたか。	定期試験 文章表現、口頭表現 授業内で行う小テスト
③主体的に学習に取り組む態度		・ワーク等の副教材などを工夫して学習に有効活用できているか。 ・学習によってどのような変容が見られたか。	学習活動全般 学習の振り返りや提出物など

(2) 観点と評価の関係

			評定
A	A	A	5
A	A	B	4
A	B	B	
A	A	C	
A	B	C	
B	B	B	
B	B	C	
A	C	C	
B	C	C	2
C	C	C	1

<評価の注意事項>

国語では、話す・聞く・読む・書く4つの技能と授業に取り組む姿勢を総合的に評価するため、定期試験だけ努力すればいいというわけではありません。

つまり定期試験で満点を取り「知識・技能」・「思考・判断・表現」がともにA評価であっても、自己評価シートや提出物など「主体的に学習に取り組む態度」がBまたはCの場合、評定が「5」にはならないということです。定期試験以外の評価が重要であるという認識をしっかりともって日頃から学習に打ち込みましょう。

4. 教科に関するアドバイス

国語は全ての教科・実生活の土台です。国語の力を伸ばすためには、常に自分の考えを持つことが大切です。そのためには話をしっかりと聞く「聞く力」、相手の意図を汲み取る「読む力」が必要です。また、自分の考えを聞き手にわかりやすく伝えるためには、語彙を豊かにし、より良い言葉を選択する「話す力」、「書く力」が必要です。

日常生活から自身がつかう言葉を意識し、丁寧かつ正しい言葉遣いを意識して生活してください。また、初見の文章を読む際は時間を意識して、正確に読めるように努めましょう。朝読書も、単語の意味をすばやく理解する練習になります。情景や登場人物の心情を意識して文章を読むことで、読解力の向上に繋がります。使える言葉=語彙を増やしていきましょう。